

読む ミルク



ジーアンドエス社長 萩原 扶未子

講演会や研修の依頼を受け全国に行きますが、最近そのテーマで特に増えているのが、①男女の特性を経営や組織に活かす手法②女性ならではのプチ起業の仕方③再就職や新卒向けの心得講座——です。どれも、ベースにはジェンダー(男女の特性)がかかわっていて、私の講義の大きな特徴になっています。

背景には、女性の社会進出が当たり前になっているにもかかわらず、旧態依然として、男性型ビジネスが続いていること。さらに給与支払が銀行振込になったことで、かなりの購買決定権が女性に移っているのに、マーケティング手法が変わっていないことなどがあるからだと思いません。

男女の特性に着目

経営者側は、女性社員の活用方法や物の作り方、売り方(チラシや陳列、接客)を頭で分かっているにもかかわらず、論理的な認識ができていないために対応しきれいていません。だから受講生からは「目から鱗が落ちた」「知っているか知らないかですごい違い」という言葉が聞かれ、「男女の特性を経営や組織に活かす手法」の依頼が急増しているのです。

起業のあり方も男女差が大きくあります。女性は、これまでの成長型ではなく、安定型プチ起業を目指しています。ところが「そんなことがビジネスになるの?」「少ないビジネス経験でどうやってやるの?」など、従来のビジネス素養を基準にしている人たちからの言葉で、せっかくの起業の芽を摘まれてしまっていました。女性側も「ネットワークがないので、相談相手が評価を得ていると感じています。」「性別」の男・女があります。私

が評価を得ていると感じています。」「性別」の男・女があります。私

再就職や新卒の就職指導も同じです。男性型基準の中で、女性は面接や作文などで全体を説明しようとするために、「結論が見えない」「説明が分かりにくい」と受け取られてしまいます。ジェンダーを分かっているならば、洋服や表情、言葉を、採用者に合わせることで、合格率に反映されます。だから「再就職や新卒向けの心得講座」

手やコラボレーションができない」「などのハンデがありません。それが、「のと・七尾女性起業塾」「金沢市女性のための起業支援セミナー」「いしかわ女性基金 女性起業セミナー」などの盛況につながり、従来の起業塾とは切り替えた女性視点の指導や支援が必要なきことが理解されました。

皆さんも、個々の分野でジェンダー特性を取り入れてみませんか?